

資料 Data

広島県廿日市市御手洗川河口周辺の鳥類相

西本悟郎¹・近藤裕介^{1,2}・上野吉雄¹・大西順子¹

Record of wild birds in the vicinity of the Mitarai River tidal flat in Hatsukaichi City, Hiroshima Prefecture, Japan

Gorou NISHIMOTO¹, Yusuke KONDO^{1,2}, Yoshio UYENO¹ and Junko OONISHI¹

要旨：広島県廿日市市に位置する御手洗川河口は、最大干出面積約 4 ha の干潟であり、広島湾西部では広島市西区と佐伯区の間にある八幡川河口と並んで県内有数の水鳥生息地である。しかし、これまで御手洗川河口周辺に生息する鳥類相のまとまった報告はない。そこで、廿日市市御手洗川河口周辺の鳥類相の解明を目的として御手洗川河口周辺において、2017 年 1 月から 2023 年 9 月までの週に 1–4 回の定期的なルートセンサス法による調査を行った。その結果、『環境省レッドリスト 2020』と『広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第 4 版）レッドデータブックひろしま 2021』に選定されている 32 種を含む 12 目 37 科 131 種（4 亜種を含む）の鳥類を確認した。

キーワード：絶滅危惧種、渡来、繁殖、干潟、御手洗川

Abstract: The mouth of the Mitarai River, located in Hatsukaichi City, Hiroshima Prefecture, is a tidal flat with an area of approximately 4 ha on the lowest tide. It is one of the most important waterfowl habitats in the western part of Hiroshima Bay, along with the mouth of the Yahata River. However, no reports have been published on the bird fauna that inhabits the area around the mouth of the Mitarai River. Therefore, we conducted surveys using the line census method 1–4 times per week from January 2017 to September 2023 to elucidate the bird fauna around the river. We identified 131 species of birds in 12 orders and 37 families, including 32 species that were listed as endangered in the 4th version of the Japanese Red List (5th edition) and the Red Data Book (2021) on Hiroshima Prefecture.

Keywords: Breeding, Endangered species, Migration, Mitaraigawa-river, Mud flat

緒言

広島県廿日市市にある御手洗川河口には、最大干出面積約 4 ha となる干潟が干潮時に形成される（図 1）。この干潟は広島湾西部では広島市西区と佐伯区の間にある八幡川河口と並んで県内有数の水鳥生息地である（日比野・大藤, 1979；上霜・日比野, 1994）。御手洗川河口周辺には様々な環境が存在している。幅約 4 m のクリークが干潟西側に存在し、そこにはヨシ *Phragmites australis* (Cav.) Trin. ex Steud. が繁茂する茂みがあり、多くの鳥類が生息している。また、その土手にはソメイヨシノ *Cerasus × yedoensis* ‘Somei-yoshino’ が植栽されており、樹林を利用する鳥類も見られる。御手洗川河口東側にはゴルフ場、浄化センターがあるが草原も少し残っている。（図 1）。

御手洗川河口周辺はこのような干潟、クリーク、サクラ並木、草原といった様々な環境が局所的に集約していることから、飛来する鳥類は多様である。本稿では、御手洗川河口周辺に出現した鳥類相について報告する。

材料および方法

2017 年 1 月～2023 年 9 月まで、1 週間に 1–4 回程度の頻度で午前 10 時～午後 5 時の間に約 2 時間ルートセンサス調査を行った。調査は御手洗川河口から開始し、クリークまで図 1 の赤線で示すルートを徒歩で移動しながら出現した鳥類を記録した。加えて、最低週 1 回の頻度で上述の調査時間と同様の条件で地御前漁港および御手洗川東側のゴルフ場、浄化

1 日本野鳥の会広島県支部：Wild Bird Society of Japan Hiroshima Branch

2 広島大学瀬戸内 CN 国際共同研究センター・ブルーイノベーション部門水産実験所：Fisheries Laboratory, Blue Innovation Division, Seto Inland Sea Carbon-neutral Research Center, Hiroshima University

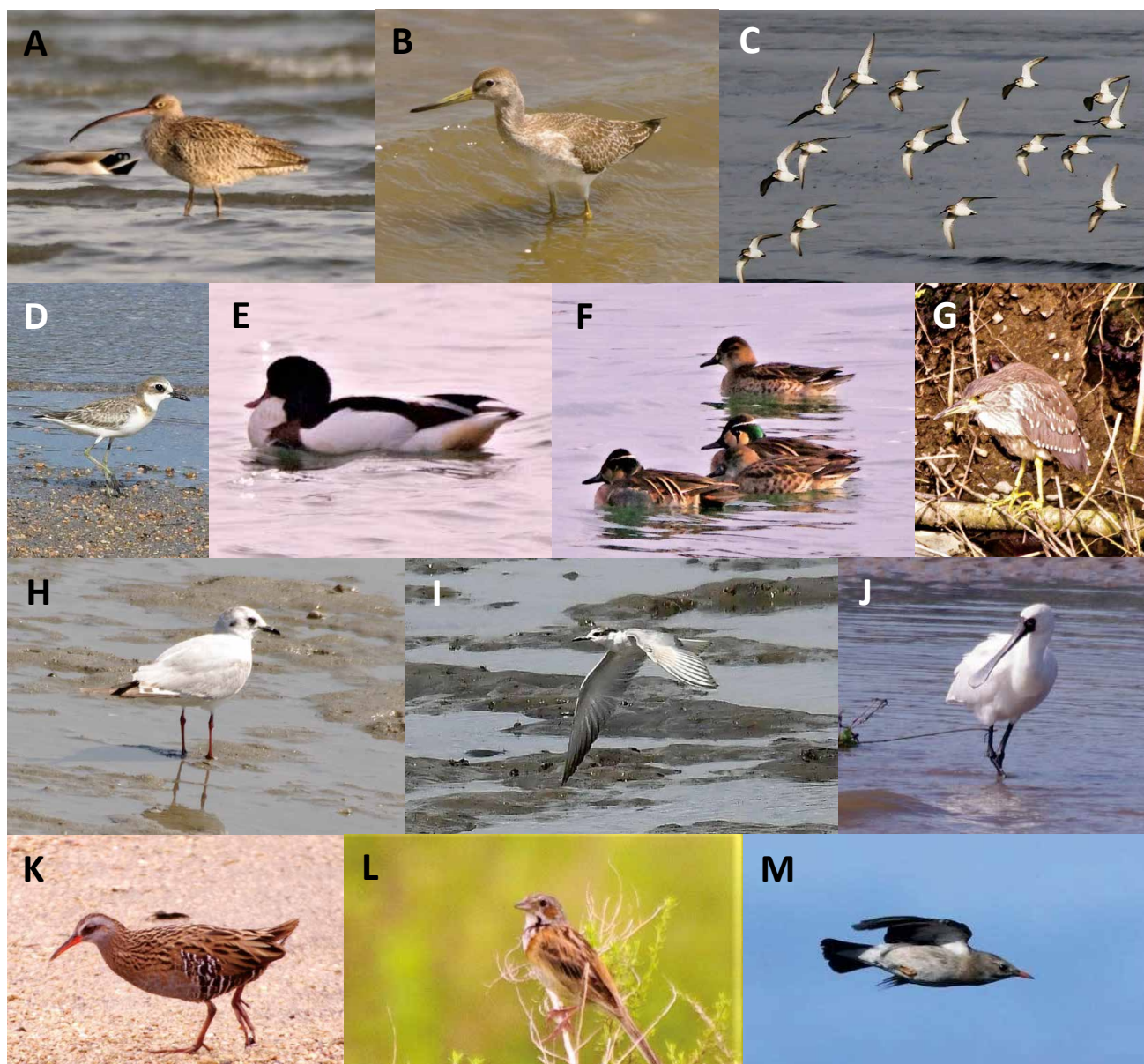


図2 御手洗川河口周辺で撮影された鳥類

A. ホウロクシギ, 2022年4月9日撮影; B. カラフトアオアシシギ, 2014年9月8日撮影; C. ハマシギ, 2022年12月25日撮影; D. オオメダイチドリ, 2021年8月30日撮影; E. ツクシガモ, 2021年2月27日撮影; F. トモエガモ, 2018年12月25日撮影; G. ゴイサギ, 2021年2月27日撮影; H. ズグロカモメ, 2020年4月7日撮影; I. クロハラアジサシ, 2022年10月6日撮影; J. クロツラヘラサギ, 2021年11月20日撮影; K. クイナ, 2022年4月24日撮影; L. ホオアカ, 2021年5月14日撮影; M. ギンムクドリ, 2023年7月25日撮影。撮影者: A, B, C, E, F, G, H, J, K, L: 西本悟郎; D, I, M: 立本ますみ。

1849) (図2J) 等である。また、旅鳥が35種記録され、御手洗川河口周辺は重要な渡り中継地になっていることが分かった。

渡来種数が多かったカモ科は18種が確認された。ほとんどが秋から冬にかけて飛来し、翌年の春にかけて滞在した(表2)。カモ科18種のうち、『環境省RL』ではツクシガモ *Tadorna tadorna* (Linnaeus, 1758) (図2E) とトモエガモ *Anas formosa* Georgi, 1775 (図2F) が絶滅危惧Ⅱ類に、マガンが準絶滅危惧に、オシドリ *Aix galericulata* (Linnaeus, 1758) が情報不足に選定されている。マガンは2021年11月

16日に1羽が飛来した。ツクシガモは2020年12月31日に7羽を確認し、それ以降は春と秋に1羽が見られる程度である。トモエガモは2018年12月15日に7羽が観察され、他にもメスが1羽で2019年11月11日に観察された。オシドリは2022年7月26日に1羽、2022年10月25日に5羽が観察された。普通に見られる種のうちカルガモは干潟、クリークで1年を通じて見られ、クリークでは繁殖が毎年確認されている。また、ヒドリガモ *Anas penelope* Linnaeus, 1758 やオカヨシガモ *A. strepera* Linnaeus, 1758, オナガガモ *A. acuta* Linnaeus, 1758 等の水面採餌カモ類は

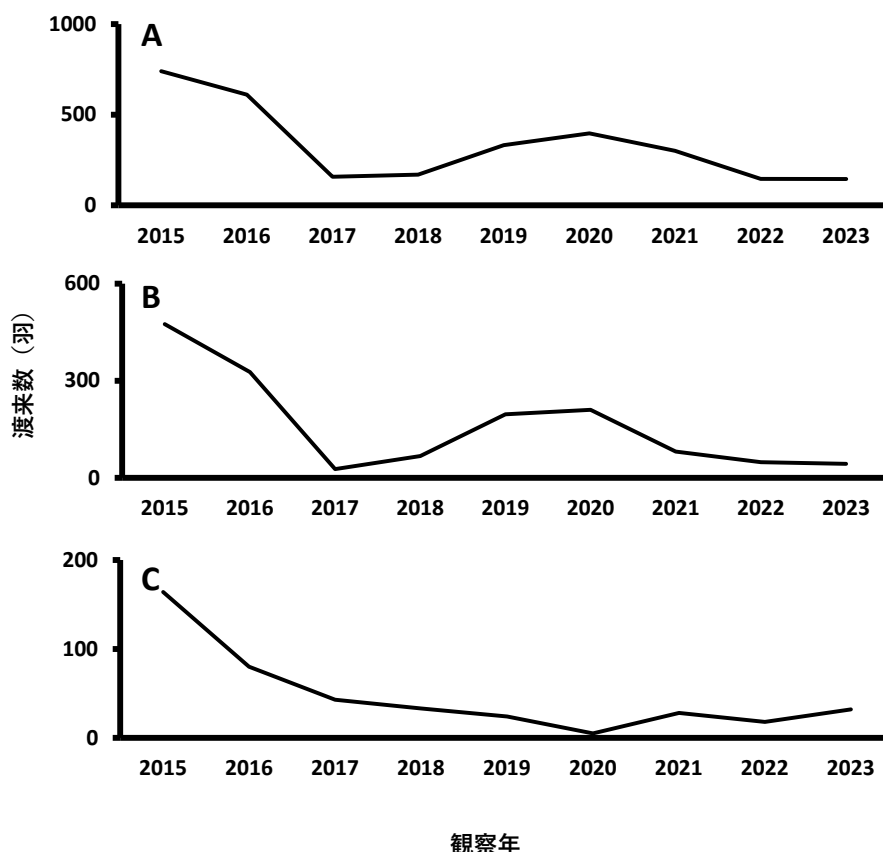


図3 水面採餌カモ類（ヒドリガモ、オカヨシガモ、オナガガモ）の年度別渡来数
ヒドリガモの渡来数（A）、オカヨシガモの渡来数（B）、オナガガモの渡来数（C）。

河口部に広く生息し、主に沿岸のアオサ類を採餌していた。日本野鳥の会広島県支部（2020a；b）および本調査結果によるとヒドリガモとオカヨシガモは2017年に渡来数が一度激減し、2019年、2020年に若干回復の兆しが見えたものの、その後は再び減少している（図3A, B）。オナガガモについても2015年以降減少傾向にある（図3C）。渡来数減少の要因として、これら水面採餌カモ類の主な餌であるアオサ類の生育ピークの遅れが考えられる。御手洗川から東へ約10 kmのところにある八幡川河口の事例であるが、1984年頃は12月頃がアオサ類の生育ピークであった（広島県、1984）。しかし、2016年頃から生育ピークが徐々に遅くなり、2019年はカモ類の渡去直前の4月頃に生育ピークが見られた（広島県広島港湾振興事務所、私信）。カモ類の渡りの時期とアオサ類の生育ピークとのずれによって、アオサ類を主食としている水面採餌カモ類の渡来数が減少したと考えられる。海底の巻貝や二枚貝を潜って採餌する潜水カモ類であるスズガモ *Aythya marila* (Linnaeus, 1761) は毎年200羽前後が越冬しているが、2020年10月23日に記録の少ない白変個体1羽が観察された。また、ウミア

イサ *Mergus serrator* Linnaeus, 1758 は河口部沖の海面を遊泳する姿および沖合で魚類を採餌する姿が確認された。

カモ科と並んで出現種数が多かったシギ科は18種が確認され、旅鳥として春と夏から秋にかけて飛来する（表2）。このうち、オオソリハシシギ *Limosa lapponica* (Linnaeus, 1758)、ホウロクシギ *Numenius madagascariensis* (Linnaeus, 1766)（図2A）、アカアシシギ *Tringa totanus* (Linnaeus, 1758) が『環境省RL』で絶滅危惧Ⅱ類に、ハマシギ *Calidaris alpina* (Linnaeus, 1758)（図2C）が『環境省RL』と『広島県RDB』で準絶滅危惧に選定されている。オオソリハシシギは2017年4月14日、2018年7月29日～31日、2019年4月5日～16日、2020年4月15日～21日に各1羽が観察された。本種は2017年～2020年まで4年連続で見られたが、2021年以降の観察記録はない。ホウロクシギは2021年6月3日～4日にかけて河口部の干潟で1羽が観察され、2022年3月21日に1羽、2022年4月9日にも4羽が確認された。アカアシシギは2022年4月4日～5日に1羽が確認された。ハマシギは御手洗川において春秋冬に

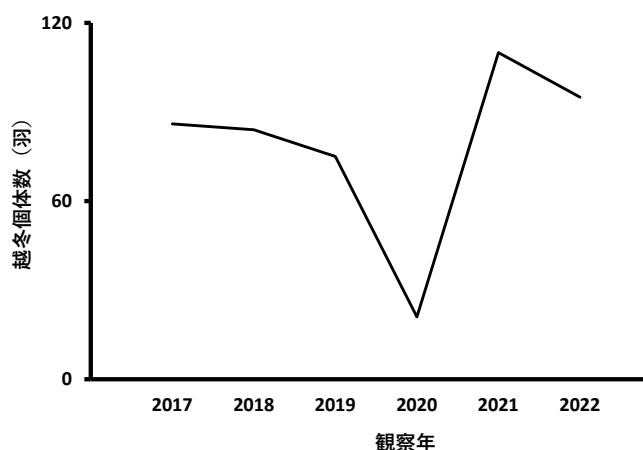


図4 ハマシギの年別越冬個体数

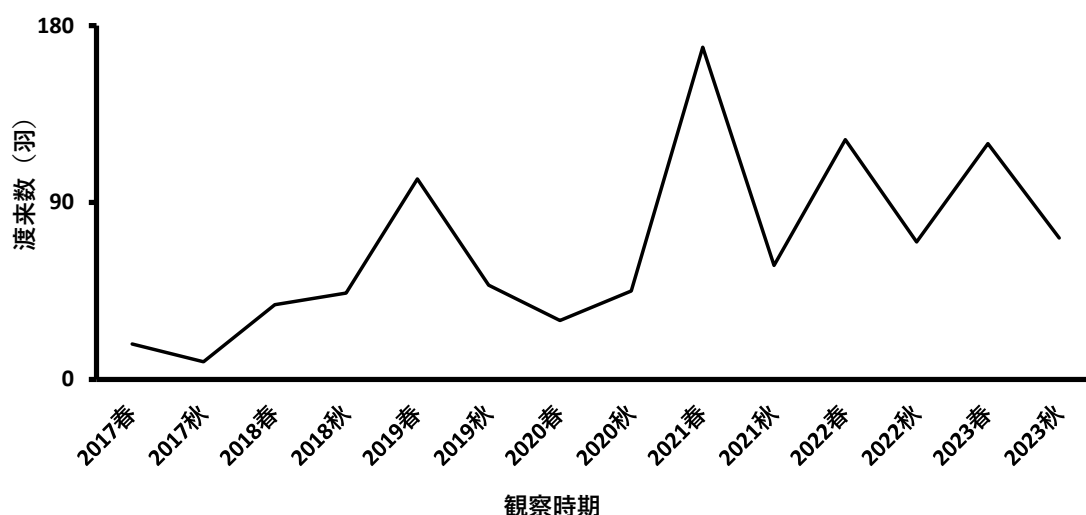


図5 キアシシギの年別渡来数

出現を確認した。本調査期間ではないが御手洗川河口では1983年12月30日に最大羽数230羽のハマシギの越冬個体群が記録されている（広島県，1984）。しかし，調査期間中の2017年～2022年はハマシギの大きな個体群は見られず，最大越冬個体数は100羽前後で40年前の半数以下であった（図4）。減少要因としては，1994年着工の廿日市市浄化センター建設により，干潟の3分の1が埋め立てられたことが大きな要因のひとつとして考えられる。越冬個体数は前述した通りであるが，春秋の群れも100羽前後で推移しており，最大羽数は2022年5月8日に198羽が確認された。キアシシギ *Heteroscelus brevipes* (Vieillot, 1816) の渡来数は春と秋の渡りで年によって変動があるものの2020年～2023年の春の渡りでは2021年5月15日に169羽を記録し，それ以降は120羽前後が続いている。一方で，秋の渡りでは80羽前後で春

よりかは減少傾向であった（図5）。また，イソシギ *Actitis hypoleucos* (Linnaeus, 1758) は年により若干の差はあるが御手洗川河口では5月中旬から7月中旬にかけて見られなくなる期間があった（表3）。イソシギの繁殖期は4月～7月とされており（清棲，1978；中村・中村，1995），御手洗川河口では5月中

表3 イソシギの繁殖期を除く年別の渡来時期

| 観察年 | 今季最終確認日 | 今季初確認日 |
|------|---------|--------|
| 2018 | 5月19日 | 7月21日 |
| 2019 | 5月19日 | 8月7日 |
| 2020 | 5月19日 | 7月14日 |
| 2021 | 6月13日 | 7月15日 |
| 2022 | 5月22日 | 7月22日 |
| 2023 | 5月18日 | 8月1日 |

旬から7月中旬まで記録がないため、繁殖期には御手洗川河口から他の場所へ移動している可能性が高く、御手洗川河口周辺では繁殖していないと思われる。

セイタカシギ科では『環境省 RL』で絶滅危惧Ⅱ類に選定されているセイタカシギ *Himantopus himantopus* (Linnaeus, 1758) が2021年8月14日に4羽観察された。

チドリ科は6種が記録され、そのうちダイゼン *Pluvialis squatarola* (Linnaeus, 1758) が『広島県 RDB』では準絶滅危惧、シロチドリ *Charadrius alexandrinus* Linnaeus, 1758 が『環境省 RL』で絶滅危惧Ⅱ類、『広島県 RDB』で県内で繁殖する個体群が地域個体群に選定されている。ダイゼンは越冬記録ではないが2021年11月15日～17日まで1羽が観察された。また、春の渡りでは2021年4月20日、5月13日～14日、秋の渡りでは2021年8月21日～31日までダイゼンが1羽観察された。シロチドリは御手洗川において6月を除いて一年中、数羽から数十羽が観察される(表2)。2021年10月31日にはシロチドリが最大41羽確認された。全国的にもあまり越冬の観察例のないメダイチドリ *Charadrius mongolus* Pallas, 1776 は2022年1月4日～3月11日にかけて2羽の越冬が観察された。さらに、浄化センター内の造成地においてコチドリ *Charadrius dubius* (Scopoli, 1786) の繁殖を2022年と2023年に確認した。

御手洗川河口干潟はシギ科およびチドリ科では広島県内の他地域と比べても種数および渡来数ともに多く、広島県内でも重要な生息地のひとつとなっている(日本野鳥の会広島県支部, 2022a)。御手洗川河口には泥質、砂質などの多様な底質が見られ、その底質環境ごとに様々なカニ類の生息が確認されている(西本, 未発表)。これまであげてきたように多様なシギ・チドリ類が確認されるのは餌となりえるカニ類の種数、個体数が多いためと考えられる。全国的にシギ・チドリ類が激減しており(天野, 2006)、それらの生息地となる沿岸部、干潟については慎重な開発が望まれる。

サギ科では9種(2亜種を含む)が記録され、ヨシゴイ *Ixobrychus sinensis* (Gmelin, 1789)、ゴイサギ *Nycticorax nycticorax* (Linnaeus, 1758) (図2G)、アマサギ *Bubulcus ibis* (Linnaeus, 1758) が『広島県 RDB』で情報不足、ササゴイ *Butorides striata* (Linnaeus, 1758)、クロサギ *Egretta sacra* (Gmelin, 1789) が『広島県 RDB』で準絶滅危惧、チュウサギ *Egretta*

intermedia (Wagler, 1829) が『環境省 RL』で準絶滅危惧に選定されている。このうちヨシゴイは『環境省 RL』でも準絶滅危惧に選定されている。ヨシゴイの確認は2020年10月12日に1羽が記録された1例しかない。御手洗川ではゴイサギは幼鳥が6月を除き一年中観察されており、成鳥が2021年3月14日～23日まで1羽が観察された。アマサギは春と秋に1, 2羽の出現記録がある。2021年5月15日にはアマサギ4羽が東側の廿日市浄化センターの草原で採餌する姿を記録したが、2022年には草原は消失し、太陽光発電機が設置された。ササゴイは御手洗川においては2019年から観察され始め、潮だまりを休憩地とし、牡蠣筏の上から魚類を採餌していた。2021年に巣立ちびな3羽が確認され、その後、2023年に巣が発見され、御手洗川においてササゴイの繁殖が初めて確認された。チュウサギは御手洗川河口の干潟で2021年6月15日に1羽、2023年5月25日に1羽が観察された。チュウサギは海岸や山地の水辺には少ないサギ類であるため(中村・中村, 1995)、干潟で観察されることは珍しい。クロサギは島しょ部に繁殖地があるが、本土側にも現れることがあり(日本野鳥の会広島県支部編著, 2002)、御手洗川河口では2022年2月1日に1羽が確認された。亜種ダイサギは御手洗川に冬鳥として飛来し、冬期に少数が観察される。一方で亜種チュウダイサギは広島県内では夏鳥である(日本野鳥の会広島県支部編著, 2002)。御手洗川ではチュウダイサギは繁殖期の終わった6月から巣立った幼鳥が増え始め、7月に出現個体数が最大になる。2022年7月31日は19羽が観察された。アオサギ *Ardea cinerea* Linnaeus, 1758 は近隣の地御前神社での営巣が2017年から確認され、2023年は10個以上の巣を確認し、10羽以上が巣立って干潟やクリークで採餌していた。

カモメ科では9種が記録され、ズグロカモメ *Larus saundersi* (Swinhoe, 1871) (図2H) は『環境省 RL』で絶滅危惧Ⅱ類、『広島県 RDB』で準絶滅危惧、オオセグロカモメ *L. chastises* Stejneger, 1884 は『環境省 RL』で準絶滅危惧、コアジサシ *Sterna albifrons* Pallas, 1764 は『環境省 RL』で絶滅危惧Ⅱ類、『広島県 RDB』で絶滅危惧Ⅰ類に選定されている。ズグロカモメは個体数の記録を取り始めた2017年2月7日に20羽が見られたが、それ以降は5羽～10羽ぐらいが毎年越冬している。2022年には11月8日から翌2023年3月11日にかけての約4か月間、10羽のズグロカモメが観察された。県内における定期的渡来地は御手洗川河口しかなく、餌となるカニ類やゴカイ類

の多い干潟に依存していると考えられる。ズグロカモメは世界的にも貴重な干潟を代表する種であり、保護のためには餌場となる干潟の保全が重要である。オオセグロカモメは数少ない旅鳥で（表1）、2022年11月22日に1羽、2023年2月18日に2羽が観察された。コアジサシは2022年4月26日に1羽、2022年7月16日に8羽、同月17日に3羽、同月18日に5羽が観察された。本調査での観察結果よりコアジサシは御手洗川河口を餌場としてのみ利用しており、周辺では繁殖していないと考えられる。

トキ科では、『環境省 RL』で絶滅危惧 I B 類に選定されているクロツラヘラサギ（図2J）が2021年11月20日、2021年12月25日、2022年9月21日に各1羽観察された。『環境省 RL』で情報不足に選定されているヘラサギは2021年10月30日、31日の2日間、同一個体と思われるものが1羽観察された。

ミサゴ科ではミサゴ *Pandion haliaetus* (Linnaeus, 1758) が『環境省 RL』で準絶滅危惧、タカ科ではハイタカ *Accipiter nisus* (Linnaeus, 1758) が『環境省 RL』で準絶滅危惧、オオタカ *A. gentilis* (Linnaeus, 1758) が『環境省 RL』と『広島県 RDB』で準絶滅危惧、ハヤブサ科ではハヤブサ *Falco peregrinus* Tunstall, 1771 が『環境省 RL』で絶滅危惧 I B 類、『広島県 RDB』で準絶滅危惧に選定されている。ミサゴは御手洗川河口を常時餌場にしており、多いときは5羽以上見られた。ハイタカは毎年のように冬期に幼鳥が潮だまりに飛来する。2017年11月21日にはハイタカがモズ *Lanius bucephalus* Temminck & Schlegel, 1845 を捕食する様子が観察された。オオタカは2021年10月31日に1羽が浄化センターに止まっていた。ノスリは2021年2月21日、28日に各1羽、御手洗川河口上空を飛翔していた個体を観察した。ハヤブサは2022年1月4日、2月5日に各1羽が観察できた。その他の猛禽類として御手洗川ではトビ *Milvus migrans* (Boddaert, 1783) とチョウゲンボウ *Falco tinnunculus* Linnaeus, 1758 が観察された。

また、生息地ごとに注目するとクリークのヨシ群落内でクイナ *Rallus aquaticus* Linnaeus, 1758（図2K）、ヒクイナ *Porzana fusca* (Linnaeus, 1766)、バン *Gallinula chloropus* (Linnaeus, 1758) が確認された。『広島県 RDB』で準絶滅危惧に選定されているクイナは2022年4月21日～29日に1羽が御手洗川上流のヨシ群落内で確認された。『環境省 RL』で準絶滅危惧、『広島県 RDB』で絶滅危惧 II 類に選定されているヒクイナは2022年3月10日に2羽が確認され、その後も2023年4月21日にクリークで2羽で行動し

ているのが確認されており、周辺のヨシ群落内で繁殖している可能性がある。バンは2017年～2020年までは越冬していたが、2021年以降はバンの出現が確認されなくなり、御手洗川においては近年、バンの個体数が減少してきていると思われる。

クリーク内のヨシ群落には、渡りの時期にアリスイ *Jynx torquilla* Linnaeus, 1758、オオムシクイ *Phylloscopus examinandus* Stresemann, 1913、オオヨシキリ *Acrocephalus orientalis* (Temminck & Schlegel, 1847)、コヨシキリ *A. bistrigiceps* Swinhoe, 1860、ノビタキ *Saxicola torquatus* (Linnaeus, 1766)、ベニマシコ *Uragus sibiricus* (Pallas, 1773)、ホオジロ *Emberiza cioides* Brandt, 1843、カシラダカ *E. rustica* Pallas, 1776、ノジコ *E. sulphurata* Temminck & Schlegel, 1848、アオジ *E. spodocephala* Pallas, 1776、オオジュリン *E. schoenichus* (Linnaeus, 1758)、ニュウナイスズメ *Passer rutilans* (Temminck, 1836) など、ホオジロ科を中心に多くの種が確認された。オオムシクイが『環境省 RL』に情報不足として選定されており、2020年10月20日、23日に各1羽観察された。『環境省 RL』に準絶滅危惧として選定されているノジコが2022年4月16日に1羽が観察された。多くの旅鳥が観察されたことから御手洗川河口のヨシ群落も渡りの中継地として重要であることが明らかとなった。

また、御手洗川河口東側のゴルフ場と浄化センターそばの草原では、ホオアカ *Emberiza fucata* Pallas, 1776（図2L）、ヒバリ *Alauda arvensis* Linnaeus, 1758、セッカ *Cisticola juncidis* (Rafinesque, 1810) などの繁殖が確認された。『広島県 RDB』で繁殖個体群が地域個体群として選定されているホオアカは2020年4月28日にオスメス各1羽を確認しており、2020年7月16日は巣立ち雛が確認された。しかし、2022年に太陽光発電機が設置され、草原の90%が消失した。このため2023年は草本に巣を作るホオアカ、セッカのうち（中村・中村, 1995）、ホオアカは6月2日にオス1羽を観察したが、それ以降は観察されなかった。また、セッカは2023年には観察されなかった。このように太陽光発電機により草原が失われて以降は地上に巣を作るヒバリ（中村・中村, 1995）しか繁殖できなくなった。その他の鳥類の繁殖としては、ゴルフ場入口の橋桁では2022年以降、5つがい以上のイワツバメ *Delichon dasypus* (Bonaparte, 1850) の繁殖を記録した。

おわりに

2017年1月から2023年9月のルートセンサス調査によって、御手洗川河口周辺において12目37科131種（4亜種を含む）の鳥類を確認した。今回の調査により、御手洗川河口干潟やその周辺の水辺を利用するカモ類やシギ・チドリ類などの他、周辺のヨシ群落、草原を利用するクイナ類、ホオジロ類、ヨシキリ類などの鳥類が確認された。そのうち『環境省RL』により選定された絶滅危惧ⅠB類が1種、絶滅危惧Ⅱ類が10種、準絶滅危惧が10種、情報不足が3種、確認された。また、『広島県RDB』により選定された絶滅危惧Ⅰ類が1種、絶滅危惧Ⅱ類が1種、準絶滅危惧が9種、情報不足が3種、地域個体群が2種、確認された。これに加えて、本調査期間以前の文献には以下のような出現種が報告されている。『環境省RL』に絶滅危惧ⅠAとして掲載されているカラフトアオアシシギ *Tringa guttifer* (Nordmann, 1835) (図2B)、絶滅危惧Ⅱ類として掲載されているコクガン *Brannta berunicla* Tugarinov, 1941、ツルシギ *Tringa erythropus* (Pallas, 1764)、タカブシギ *Tringa glareola* Linnaeus, 1758、ツバメチドリ *Glareola maldivarum* Forster, 1795、準絶滅危惧として掲載されているカラシラサギ *Egretta eulophotes* (Swinhoe, 1860) などである。カラフトアオアシシギは1979年9月2日～15日と2014年9月7日から約2週間、確認された（日本野鳥の会広島県支部編著、2002；日本野鳥の会広島県支部、2014）。コクガンは2008年4月10日～14日まで出現した（大西、未発表）。ツルシギは1977年3月6日、タカブシギは春の記録が1977年4月22日のみで、秋は1977年～1979年の8月～11月まで11回観察された（日比野・大藤、1979）。ツバメチドリは1978年7月22日、カラシラサギは1977年4月30日に出現が確認された。（日比野・大藤、1979）。また、『広島県RDB』において絶滅危惧Ⅰ類に選定されているシロエリオオハム *Gavia pacifica* (Lawrence, 1858) は1978年6月17日に観察された（日比野・大藤、1979）。このように御手洗川河口周辺は絶滅が危惧されている鳥類が多く生息する貴重な環境であると言える。

御手洗川河口の干潟はカニ類などの底生生物も数多く生息しており、これらの生物を餌とするシギ・チドリ類やサギ類が飛来し、県内有数の鳥類の生息地となっている。さらに、日本野鳥の会をはじめとする自然保護団体や地元の地御前小学校の学習の場として活用されている（日本野鳥の会広島県支部、2022b；2022c）。一方、御手洗川河口干潟では、道路建設な

どの土地開発の計画が進んでおり、これらの貴重な環境が失われつつある。環境保全の観点からも今後の継続的な調査が必要である。

謝辞

本稿を執筆する機会を与えていただいた広島大学大塚 攻教授、西田雄介氏、写真を提供していただいた亀澤仁之氏、立本ますみ氏、野鳥に関する情報を提供して頂いた茶村真一郎支部長をはじめとする日本野鳥の会広島県支部の皆様、桑原 隆氏、白井 寛氏、栗屋冬彦氏の諸氏および原稿について有益なコメントをいただいた査読者の方に感謝いたします。

【引用文献】

- 天野一葉（2006）：干潟を利用する渡り鳥の現状。地球環境。11, 215-226.
- 上霜英夫・日比野政彦（1994）：廿日市市の鳥類。廿日市市教育委員会（編）：『廿日市市の生物』廿日市市教育委員会、廿日市市、153-169.
- 環境省（2021）：環境省レッドリスト2020。https://www.env.go.jp/press/107905.html（2023年8月26日閲覧）
- 清棲幸保（1978）：『増補改訂版 日本鳥類大図鑑Ⅱ』講談社。
- 生物多様性広島戦略推進会議希少生物分科会（編）（2022）：『広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第4版）レッドデータブックひろしま2021』https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/tayousei/j-j2-reddata2-index3.html（2023年8月26日閲覧）
- 中村登流・中村雅彦（1995）：『原色日本野鳥生態図鑑〈水鳥編〉』保育社。
- 日本鳥学会（2012）：日本鳥類目録 改訂第7版。https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fornithology.jp%2Fkatsudo%2FPublications%2Fchecklist7_contents%2FJPBirdList_7ed_ver1.xls&wdOrigin=BROWSELINK（2023年8月26日閲覧）
- 日本野鳥の会広島県支部（2020a）：2015年広島県ガン・カモ・ハクチョウ類一斉調査。2015, 2016, 2017, 2018, 2019年広島県支部年報合併号, 15-30.
- 日本野鳥の会広島県支部（2020b）：2016年広島県ガン・カモ・ハクチョウ類一斉調査。2015, 2016, 2017, 2018, 2019年広島県支部年報合併号, 60-78.
- 日本野鳥の会広島県支部（2022）：2021年（令和3）年度広島県シギ・チドリ調査結果。令和2年・令和3年度広島県支部年報, 37・38, 82-84.
- 日本野鳥の会広島県支部（2022b）：探鳥会。令和2年・令和3年度広島県支部年報, 37・38, 6-10.
- 日本野鳥の会広島県支部（2022c）：探鳥会。令和2年・令和3

年度広島県支部年報, 37・38, 59-65.

日本野鳥の会広島県支部編著 (2002):『ひろしま野鳥図鑑
増補改訂版』中国新聞社.

日比野政彦・大藤由美子 (1979):『広島湾八幡川河口の鳥類』
私家版.

広島県 (1984):『八幡川河口域水鳥生態調査報告書』広島県.
(2024 年 8 月 31 日受付)
(2024 年 12 月 24 日受理)

表1 廿日市市御手洗川周辺の鳥類リスト

目、科、種名、学名と配列は『日本鳥類目録改訂第7版』（日本鳥学会，2012）に従った。渡り区分は『ひろしま野鳥図鑑増補改訂版』（日本野鳥の会広島県支部編著，2002）に従った。絶滅のおそれのある種のカテゴリーは『環境省レッドリスト2020』（環境省，2021），『広島県の絶滅のおそれのある野生生物（第4版）レッドデータブックひろしま2021』（生物多様性広島戦略推進会議希少生物分科会（編），2022）に従った。CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類，CR：絶滅危惧Ⅱ類，EN：絶滅危惧Ⅲ類，VU：絶滅危惧Ⅳ類，NT：準絶滅危惧，DD：情報不足，LP：地域個体群。

| 目 | 科 | 和名 | 学名 | 環境省 (2020) | 広島県 (2022) | 渡り 区分 |
|--------|--------|-----------|--|---------------|---------------|----------|
| カモ目 | カモ科 | マガン | <i>Anser albifrons</i> (Scopoli, 1769) | NT | | 迷 |
| | | ツクシガモ | <i>Tadorna tadorna</i> (Linnaeus, 1758) | VU | | 迷 |
| | | オシドリ | <i>Aix galericulata</i> (Linnaeus, 1758) | DD | | 旅 |
| | | オカヨシガモ | <i>Anas strepera</i> Linnaeus, 1758 | | | 冬 |
| | | ヨシガモ | <i>Anas falcata</i> Georgi, 1775 | | | 冬 |
| | | ヒドリガモ | <i>Anas penelope</i> Linnaeus, 1758 | | | 冬 |
| | | マガモ | <i>Anas platyrhynchos</i> Linnaeus, 1758 | | | 冬 |
| | | カルガモ | <i>Anas zonorhyncha</i> Swinhoe, 1866 | | | 留 |
| | | ハシビロガモ | <i>Anas clypeata</i> Linnaeus, 1758 | | | 冬 |
| | | オナガガモ | <i>Anas acuta</i> Linnaeus, 1758 | | | 冬 |
| | | シマアジ | <i>Anas querquedula</i> Linnaeus, 1758 | | | 旅 |
| | | トモエガモ | <i>Anas formosa</i> Georgi, 1775 | VU | | 冬 |
| | | コガモ | <i>Anas crecca</i> Linnaeus, 1758 | | | 冬 |
| | | ホシハジロ | <i>Aythya ferina</i> (Linnaeus, 1758) | | | 冬 |
| | | キンクロハジロ | <i>Aythya fuligula</i> (Linnaeus, 1758) | | | 冬 |
| | | スズガモ | <i>Aythya marila</i> (Linnaeus, 1761) | | | 冬 |
| | | ミコアイサ | <i>Mergellus albellus</i> (Linnaeus, 1758) | | | 冬 |
| | | ウミアイサ | <i>Mergus serrator</i> Linnaeus, 1758 | | | 冬 |
| カイツブリ目 | カイツブリ科 | カイツブリ | <i>Tachybaptus ruficollis</i> (Reichenow, 1902) | | | 冬 |
| | | カンムリカイツブリ | <i>Podiceps cristatus</i> (Linnaeus, 1758) | | | 冬 |
| | | ハジロカイツブリ | <i>Podiceps nigricollis</i> Brehm, 1831 | | | 冬 |
| ハト目 | ハト科 | キジバト | <i>Streptopelia orientalis</i> (Latham, 1790) | | | 冬 |
| | | アオバト | <i>Treron sieboldii</i> (Temminck, 1835) | | | 迷 |
| カツオドリ目 | ウ科 | カワウ | <i>Phalacrocorax carbo</i> Kuroda, 1925 | | | 留 |
| ペリカン目 | サギ科 | ヨシゴイ | <i>Ixobrychus sinensis</i> (Gmelin, 1789) | NT | DD | 迷 |
| | | ゴイサギ | <i>Nycticorax nycticorax</i> (Linnaeus, 1758) | | DD | 留 |
| | | ササゴイ | <i>Butorides striata</i> (Schrenck, 1860) | | NT | 夏 |
| | | アマサギ | <i>Bubulcus ibis</i> (Boddaert, 1783) | | DD | 旅 |
| | | アオサギ | <i>Ardea cinerea</i> Clark, 1907 | | | 留 |
| | | ダイサギ | <i>Ardea alba alba</i> Linnaeus, 1758 (基亜種) | | | 冬 |
| | | チュウダイサギ | <i>Ardea alba modesta</i> Gray, 1831 (亜種) | | | 夏 |
| | | チュウサギ | <i>Egretta intermedia</i> (Wagler, 1829) | NT | | 旅 |
| | | コサギ | <i>Egretta garzetta</i> (Linnaeus, 1766) | | | 留 |
| | | クロサギ | <i>Egretta sacra</i> (Gmelin, 1789) | | NT | 迷 |
| | トキ科 | ヘラサギ | <i>Platalea leucorodia</i> Linnaeus, 1758 | DD | | 迷 |
| | | クロツラヘラサギ | <i>Platalea minor</i> Temminck & Schlegel, 1849 | EN | | 迷 |
| ツル目 | クイナ科 | クイナ | <i>Rallus aquaticus</i> Blyth, 1849 | | NT | 冬 |
| | | ヒクイナ | <i>Porzana fusca</i> (Temminck & Schlegel, 1849) | NT | VU | 夏 |
| | | バン | <i>Gallinula chloropus</i> (Linnaeus, 1758) | | | 冬 |
| | | オオバン | <i>Fulica atra</i> Linnaeus, 1758 | | | 冬 |
| チドリ目 | チドリ科 | ムナグロ | <i>Pluvialis fulva</i> (Gmelin, 1789) | | | 旅 |
| | | ダイゼン | <i>Pluvialis squatarola</i> (Linnaeus, 1758) | | NT | 旅 |
| | | コチドリ | <i>Charadrius dubius</i> Gmelin, 1789 | | | 夏 |
| | | シロチドリ | <i>Charadrius alexandrinus</i> Linnaeus, 1758 | VU | LP | 旅 |

| 目 | 科 | 和名 | 学名 | 環境省 (2020) | 広島県 (2022) | 渡り 区分 |
|---------|---------|-----------|--|---------------|---------------|----------|
| | | メダイチドリ | <i>Charadrius mongolus</i> Pallas, 1776 | | | 旅 |
| | | オオメダイチドリ | <i>Charadrius leschenaultii</i> Lesson, 1826 | | | 旅 |
| | セイタカシギ科 | セイタカシギ | <i>Himantopus himantopus</i> (Linnaeus, 1758) | VU | | 旅 |
| | シギ科 | オグロシギ | <i>Limosa limosa</i> Gould, 1846 | | | 迷 |
| | | オオソリハシシギ | <i>Limosa lapponica</i> (Linnaeus, 1758) | VU | | 旅 |
| | | チュウシャクシギ | <i>Numenius phaeopus</i> (Scopoli, 1786) | | | 旅 |
| | | ダイシャクシギ | <i>Numenius arquata</i> Brehm, 1831 | | | 旅 |
| | | ホウロクシギ | <i>Numenius madagascariensis</i> (Linnaeus, 1766) | VU | | 旅 |
| | | アカアシシギ | <i>Tringa totanus</i> Buturlin, 1934 | VU | | 旅 |
| | | アオアシシギ | <i>Tringa nebularia</i> (Gunnerus, 1767) | | | 旅 |
| | | キアシシギ | <i>Heteroscelus brevipes</i> (Vieillot, 1816) | | | 旅 |
| | | ソリハシシギ | <i>Xenus cinereus</i> (Güldenstädt, 1775) | | | 旅 |
| | | イソシギ | <i>Actitis hypoleucos</i> (Linnaeus, 1758) | | | 留 |
| | | キョウジョシギ | <i>Arenaria interpres</i> (Linnaeus, 1758) | | | 旅 |
| | | オバシギ | <i>Calidris tenuirostris</i> (Horsfield, 1821) | | | 旅 |
| | | ミユビシギ | <i>Calidris alba</i> (Pallas, 1764) | | | 迷 |
| | | トウネン | <i>Calidris ruficollis</i> (Pallas, 1776) | | | 旅 |
| | | ヨーロッパトウネン | <i>Calidris minuta</i> (Leisler, 1812) | | | 迷 |
| | | ヒバリシギ | <i>Calidris subminuta</i> (Middendorff, 1853) | | | 迷 |
| | | ハマシギ | <i>Calidris alpina</i> (Vieillot, 1816) | NT | NT | 冬 |
| | | キリアイ | <i>Limicola falcinellus</i> Dresser, 1876 | | | 旅 |
| | カモメ科 | ユリカモメ | <i>Larus ridibundus</i> Linnaeus, 1766 | | | 冬 |
| | | ズグロカモメ | <i>Larus saundersi</i> (Swinhoe, 1871) | VU | NT | 冬 |
| | | ウミネコ | <i>Larus crassirostris</i> Vieillot, 1818 | | | 冬 |
| | | カモメ | <i>Larus canus</i> Bonaparte, 1857 | | | 冬 |
| | | セグロカモメ | <i>Larus argentatus</i> Palmén, 1887 | | | 冬 |
| | | オオセグロカモメ | <i>Larus schistisagus</i> Stejneger, 1884 | NT | | 旅 |
| | | コアジサシ | <i>Sterna albifrons</i> Gmelin, 1789 | VU | CR+EN | 旅 |
| | | アジサシ | <i>Sterna hirundo</i> Linnaeus, 1758 | | | 夏 |
| | | クロハラアジサシ | <i>Chlidonias hybrida</i> (Horsfield, 1821) | | | 迷 |
| タカ目 | ミサゴ科 | ミサゴ | <i>Pandion haliaetus</i> (Linnaeus, 1758) | NT | | 留 |
| | タカ科 | トビ | <i>Milvus migrans</i> (Gray, 1831) | | | 留 |
| | | ハイタカ | <i>Accipiter nisus</i> (Tickell, 1833) | NT | | 冬 |
| | | オオタカ | <i>Accipiter gentilis</i> (Linnaeus, 1758) | NT | NT | 迷 |
| | | ノスリ | <i>Buteo buteo</i> Temminck & Schlegel, 1844 | | | 留 |
| ブッポウソウ目 | カワセミ科 | カワセミ | <i>Alcedo atthis</i> Gmelin, 1788 | | | 留 |
| キツツキ目 | キツツキ科 | アリスイ | <i>Jynx torquilla</i> Linnaeus, 1758 | | | 迷 |
| | | コゲラ | <i>Dendrocopos kizuki</i> (Temminck, 1836) | | | 留 |
| ハヤブサ目 | ハヤブサ科 | チョウゲンボウ | <i>Falco tinnunculus</i> McClelland, 1840 | | | 冬 |
| | | ハヤブサ | <i>Falco peregrinus</i> Gmelin, 1788 | VU | NT | 留 |
| スズメ目 | モズ科 | モズ | <i>Lanius bucephalus</i> Temminck & Schlegel, 1845 | | | 旅 |
| | カラス科 | ハシボソガラス | <i>Corvus corone</i> Eversmann, 1841 | | | 留 |
| | | ハシブトガラス | <i>Corvus macrorhynchos</i> Wagler, 1827 | | | 留 |
| | ツリスガラ科 | ツリスガラ | <i>Remiz pendulinus</i> (Swinhoe, 1870) | | | 旅 |
| | シジュウカラ科 | ヤマガラ | <i>Poecile varius</i> (Temminck & Schlegel, 1845) | | | 留 |
| | | シジュウカラ | <i>Parus minor</i> Temminck & Schlegel, 1848 | | | 留 |
| | ヒバリ科 | ヒバリ | <i>Alauda arvensis</i> Linnaeus, 1758 | | | 留 |
| | ツバメ科 | ツバメ | <i>Hirundo rustica</i> Linnaeus, 1758 | | | 夏 |

| 目 | 科 | 和名 | 学名 | 環境省 (2020) | 広島県 (2022) | 渡り 区分 |
|---|--------|------------|--|---------------|---------------|----------|
| | | コシアカツバメ | <i>Hirundo daurica</i> Temminck & Schlegel, 1845 | | | 夏 |
| | | イワツバメ | <i>Delichon dasypus</i> (Bonaparte, 1850) | | | 夏 |
| | ヒヨドリ科 | ヒヨドリ | <i>Hypsipetes amaurotis</i> (Temminck, 1830) | | | 留 |
| | ウグイス科 | ウグイス | <i>Cettia diphone</i> (Kittlitz, 1830) | | | 冬 |
| | エナガ科 | エナガ | <i>Aegithalos caudatus</i> (Linnaeus, 1758) | | | 留 |
| | ムシクイ科 | オオムシクイ | <i>Phylloscopus examinandus</i> Stresemann, 1913 | DD | | 旅 |
| | メジロ科 | メジロ | <i>Zosterops japonicus</i> Temminck & Schlegel, 1845 | | | 留 |
| | ヨシキリ科 | オオヨシキリ | <i>Acrocephalus orientalis</i> (Temminck & Schlegel, 1847) | | | 旅 |
| | | コヨシキリ | <i>Acrocephalus bistrigiceps</i> Swinhoe, 1860 | | | 迷 |
| | セッカ科 | セッカ | <i>Cisticola juncidis</i> (Temminck & Schlegel, 1850) | | | 留 |
| | レンジャク科 | ヒレンジャク | <i>Bombycilla japonica</i> (Siebold, 1824) | | | 旅 |
| | ミソサザイ科 | ミソサザイ | <i>Troglodytes troglodytes</i> (Linnaeus, 1758) | | | 迷 |
| | ムクドリ科 | ギンムクドリ | <i>Spodiopsar sericeus</i> (Gmelin, 1789) | | | 迷 |
| | | ムクドリ | <i>Spodiopsar cineraceus</i> (Temminck, 1835) | | | 留 |
| | | コムクドリ | <i>Agropsar philippensis</i> (Forster, 1781) | | | 旅 |
| | | ホシムクドリ | <i>Sturnus vulgaris</i> Finsch, 1878 | | | 迷 |
| | ヒタキ科 | シロハラ | <i>Turdus pallidus</i> Gmelin, 1789 | | | 冬 |
| | | ツグミ | <i>Turdus naumanni</i> Temminck, 1831 | | | 冬 |
| | | ジョウビタキ | <i>Phoenicurus aureus</i> (Pallas, 1776) | | | 冬 |
| | | ノビタキ | <i>Saxicola torquatus</i> (Parrot, 1908) | | | 旅 |
| | | イソヒヨドリ | <i>Monticola solitarius</i> (Linnaeus, 1758) | | | 留 |
| | | エゾビタキ | <i>Muscicapa griseisticta</i> (Swinhoe, 1861) | | | 旅 |
| | | コサメビタキ | <i>Muscicapa dauurica</i> Pallas, 1811 | | NT | 旅 |
| | スズメ科 | スズメ | <i>Passer montanus</i> Stejneger, 1885 | | | 留 |
| | | ニューナイスズメ | <i>Passer rutilans</i> (Temminck, 1836) | | | 旅 |
| | セキレイ科 | キセキレイ | <i>Motacilla cinerea</i> Tunstall, 1771 | | | 冬 |
| | | ハクセキレイ | <i>Motacilla alba lugens</i> Gloger, 1829 (基亜種) | | | 留 |
| | | ホオジロハクセキレイ | <i>Motacilla alba leucopsis</i> Gould, 1838 (亜種) | | | 迷 |
| | | セグロセキレイ | <i>Motacilla grandis</i> Sharpe, 1885 | | | 留 |
| | | ビンズイ | <i>Anthus hodgsoni</i> Richmond, 1907 | | | 冬 |
| | | タヒバリ | <i>Anthus rubescens</i> Temminck & Schlegel, 1847 | | | 冬 |
| | アトリ科 | アトリ | <i>Fringilla montifringilla</i> Linnaeus, 1758 | | | 冬 |
| | | カワラヒワ | <i>Chloris sinica</i> (Linnaeus, 1766) | | | 留 |
| | | シメ | <i>Coccothraustes coccothraustes</i> (Linnaeus, 1758) | | | 迷 |
| | | イカル | <i>Eophona personata</i> (Temminck & Schlegel, 1848) | | | 冬 |
| | ホオジロ科 | ホオジロ | <i>Emberiza cioides</i> Bonaparte, 1850 | | | 冬 |
| | | ホオアカ | <i>Emberiza fucata</i> Pallas, 1776 | | LP | 留 |
| | | カシラダカ | <i>Emberiza rustica</i> Portenko, 1930 | | | 冬 |
| | | ノジコ | <i>Emberiza sulphurata</i> Temminck & Schlegel, 1848 | NT | | 迷 |
| | | アオジ | <i>Emberiza spodocephala</i> Pallas, 1776 | | | 迷 |
| | | オオジュリン | <i>Emberiza schoeniclus</i> (Swinhoe, 1876) | | | 旅 |

表2 御手洗川周辺で確認された鳥類の出現月

| 種 | 観察月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|-----------|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
| マガン | | | | | | | | | | | | | |
| オシドリ | | | | | | | | | | | | | |
| ツクシガモ | | | | | | | | | | | | | |
| オカヨシガモ | | | | | | | | | | | | | |
| ヨシガモ | | | | | | | | | | | | | |
| ヒドリガモ | | | | | | | | | | | | | |
| マガモ | | | | | | | | | | | | | |
| カルガモ | | | | | | | | | | | | | |
| ハシビロガモ | | | | | | | | | | | | | |
| オナガガモ | | | | | | | | | | | | | |
| トモエガモ | | | | | | | | | | | | | |
| シマアジ | | | | | | | | | | | | | |
| コガモ | | | | | | | | | | | | | |
| ホシハジロ | | | | | | | | | | | | | |
| キンクロハジロ | | | | | | | | | | | | | |
| スズガモ | | | | | | | | | | | | | |
| ミコアイサ | | | | | | | | | | | | | |
| ウミアイサ | | | | | | | | | | | | | |
| カイツブリ | | | | | | | | | | | | | |
| カンムリカイツブリ | | | | | | | | | | | | | |
| ハジロカイツブリ | | | | | | | | | | | | | |
| キジバト | | | | | | | | | | | | | |
| アオバト | | | | | | | | | | | | | |
| カワウ | | | | | | | | | | | | | |
| ヨシゴイ | | | | | | | | | | | | | |
| ゴイサギ | | | | | | | | | | | | | |
| ササゴイ | | | | | | | | | | | | | |
| アマサギ | | | | | | | | | | | | | |
| アオサギ | | | | | | | | | | | | | |
| ダイサギ | | | | | | | | | | | | | |
| チュウダイサギ | | | | | | | | | | | | | |
| チュウサギ | | | | | | | | | | | | | |
| コサギ | | | | | | | | | | | | | |
| クロサギ | | | | | | | | | | | | | |
| ヘラサギ | | | | | | | | | | | | | |
| クロツラヘラサギ | | | | | | | | | | | | | |
| クイナ | | | | | | | | | | | | | |
| ヒクイナ | | | | | | | | | | | | | |
| バン | | | | | | | | | | | | | |
| オオバン | | | | | | | | | | | | | |
| ムナグロ | | | | | | | | | | | | | |
| ダイゼン | | | | | | | | | | | | | |
| コチドリ | | | | | | | | | | | | | |
| シロチドリ | | | | | | | | | | | | | |
| メダイチドリ | | | | | | | | | | | | | |
| オオメダイチドリ | | | | | | | | | | | | | |
| セイタカシギ | | | | | | | | | | | | | |
| オグロシギ | | | | | | | | | | | | | |
| オオソリハシシギ | | | | | | | | | | | | | |
| チュウシャクシギ | | | | | | | | | | | | | |
| ダイシャクシギ | | | | | | | | | | | | | |
| ホウロクシギ | | | | | | | | | | | | | |
| アカアシシギ | | | | | | | | | | | | | |
| アオアシシギ | | | | | | | | | | | | | |
| キアシシギ | | | | | | | | | | | | | |

| 観察月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|-----------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
| 種 | | | | | | | | | | | | |
| ソリハシシギ | | | | | | | | | | | | |
| イソシギ | | | | | | | | | | | | |
| キョウジョシギ | | | | | | | | | | | | |
| オバシギ | | | | | | | | | | | | |
| ミユビシギ | | | | | | | | | | | | |
| トウネン | | | | | | | | | | | | |
| ヨーロッパトウネン | | | | | | | | | | | | |
| ヒバリシギ | | | | | | | | | | | | |
| ハマシギ | | | | | | | | | | | | |
| キリアイ | | | | | | | | | | | | |
| ユリカモメ | | | | | | | | | | | | |
| ズグロカモメ | | | | | | | | | | | | |
| ウミネコ | | | | | | | | | | | | |
| カモメ | | | | | | | | | | | | |
| セグロカモメ | | | | | | | | | | | | |
| オオセグロカモメ | | | | | | | | | | | | |
| コアジサシ | | | | | | | | | | | | |
| アジサシ | | | | | | | | | | | | |
| クロハラアジサシ | | | | | | | | | | | | |
| ミサゴ | | | | | | | | | | | | |
| トビ | | | | | | | | | | | | |
| ハイタカ | | | | | | | | | | | | |
| オオタカ | | | | | | | | | | | | |
| ノスリ | | | | | | | | | | | | |
| カワセミ | | | | | | | | | | | | |
| アリスイ | | | | | | | | | | | | |
| コゲラ | | | | | | | | | | | | |
| チョウゲンボウ | | | | | | | | | | | | |
| ハヤブサ | | | | | | | | | | | | |
| モズ | | | | | | | | | | | | |
| ハシボソガラス | | | | | | | | | | | | |
| ハシブトガラス | | | | | | | | | | | | |
| ツリスガラ | | | | | | | | | | | | |
| ヤマガラ | | | | | | | | | | | | |
| シジュウカラ | | | | | | | | | | | | |
| ヒバリ | | | | | | | | | | | | |
| ツバメ | | | | | | | | | | | | |
| コシアカツバメ | | | | | | | | | | | | |
| イワツバメ | | | | | | | | | | | | |
| ヒヨドリ | | | | | | | | | | | | |
| ウグイス | | | | | | | | | | | | |
| エナガ | | | | | | | | | | | | |
| オオムシクイ | | | | | | | | | | | | |
| メジロ | | | | | | | | | | | | |
| コヨシキリ | | | | | | | | | | | | |
| オオヨシキリ | | | | | | | | | | | | |
| セッカ | | | | | | | | | | | | |
| ヒレンジャク | | | | | | | | | | | | |
| ミソサザイ | | | | | | | | | | | | |
| ギンムクドリ | | | | | | | | | | | | |
| ムクドリ | | | | | | | | | | | | |
| コムクドリ | | | | | | | | | | | | |
| ホシムクドリ | | | | | | | | | | | | |
| シロハラ | | | | | | | | | | | | |
| ツグミ | | | | | | | | | | | | |
| ジョウビタキ | | | | | | | | | | | | |

| 種 | 観察月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|------------|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|
| ノビタキ | | | | | | | | | | | | | |
| イソヒヨドリ | | | | | | | | | | | | | |
| エゾビタキ | | | | | | | | | | | | | |
| コサメビタキ | | | | | | | | | | | | | |
| スズメ | | | | | | | | | | | | | |
| ニュウナイスズメ | | | | | | | | | | | | | |
| キセキレイ | | | | | | | | | | | | | |
| ハクセキレイ | | | | | | | | | | | | | |
| ホオジロハクセキレイ | | | | | | | | | | | | | |
| セグロセキレイ | | | | | | | | | | | | | |
| ビンズイ | | | | | | | | | | | | | |
| タヒバリ | | | | | | | | | | | | | |
| アトリ | | | | | | | | | | | | | |
| カワラヒワ | | | | | | | | | | | | | |
| シメ | | | | | | | | | | | | | |
| イカル | | | | | | | | | | | | | |
| ホオジロ | | | | | | | | | | | | | |
| ホオアカ | | | | | | | | | | | | | |
| カシラダカ | | | | | | | | | | | | | |
| ノジコ | | | | | | | | | | | | | |
| アオジ | | | | | | | | | | | | | |
| オオジュリン | | | | | | | | | | | | | |